

# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

平成31年 3月 4日 (月) 南日本新聞

南日本新聞の「若い目」にアイガモ解体実習について掲載されたので紹介します。

ひろば

## 若い目特集

### 「いただきます」の重み知った

薩摩中央高1年

市来 葵

初めて生き物を解体した。私たちはアイガモの解体を行った。生まれてから大切に育てていたアイガモを絞めなければならぬ、とても胸が痛くなった。捕まえて足をひもで縛り逆さにつるした時に、自然

と気が引き締まった。血が

一気に出てきた時は目を背けたくなった。その後羽をむしり取り、各部位に肉を分けた。時間の流れがとて

も速く感じた。最初は胸が痛かったが、あつという間にいつも見慣れている肉になった。1週間肉を寝かせて、調

理した。アイガモといっしょに私たちが育てたアイガモ米でおにぎりをつくり、肉を炒め、そしてアイガモのガラでだしを取り野菜を入れてスープをつくった。どれもとてもおいしく、よく箸が進んだ。

あの日、胸を痛くしながら苦労して解体したアイガモを、当たり前のように食べている。考えてみると、スパーで見る肉や魚は、

さばいてくれる人がいて、私たちは当たり前のように調理して口になっている。いつも食事の前に「いただきます」と言いが、ちゃんと思いを込めて言っていたのだろうか。今回の実習を通して、私は改めて命の大切さと食前の「いただきます」の

重みを知ることができた。この経験が無駄にならないよう、食事の時「食べる」ことのありがたきを忘れな

いようにしたい。

(さつま町)